

2023 年 5 月 27 日 (土) 午後 2 時-4 時

彼らの恋は少しも利己主義的な情熱ではなかった。それは、肉体もまたそれに影響する一種の深い友情であった。たがいに煩わし合うことがなかった。それぞれが並んで自分自身のすべき仕事をした。クリストフの天才力と善意と、道徳的な背骨の強さと、そのものがフランソワーズにとって貴いものだった。

クリストフの天才力は彼女によく感じ取れた。彼女自身の天才力が、それによって活気づけられるのだった。そしてクリストフは自分が作曲をし、考えを練るときに、自分の諸情熱をこの女性において、彼が崇めるこのかたちにおいて、具体化した。そんな仕方でも肉づけされた芸術的情熱は、それらが彼の心にだけあったときよりもずっと立派なものになったように彼には思われた。

自分だけのためだけに創作するのでは足りないことを彼は彼女から覚らされた。元来クリストフは自分だけのために書く傾向をもっているのだった。

フランソワーズの経験談を聞いてクリストフは、聴衆と俳優のあいだに編まれる不思議な協力があるのを理解した。フランソワーズは現実的な精神をもっており、まやかしの夢にはまどわされないたちだが、その彼女が、俳優を大衆へ結びつける相互的暗示力、共感の波動を認めており、一人の代弁者の声の中からはほとぼり出る沈黙の力を一無數の人々の沈黙の力を認めていた。なるほど、彼女がそれを感じるのは極めて稀にきらめき出る閃光のようであり・・・しかし大切なのはその例外的な瞬間である。その束の間の閃光が深淵の中を照らして見せ、その深淵とはすなわち、無数の人々が共有する魂であり、それによって無数の人々の力がただ一人の人によって代表的に表現される。

精神的偉大さの本質は、たくさんの実感とたくさん感情支配とを併せもつことに在り、やたらに談義をせず思想に関して貞潔であることに在り、少しも思想をさらけ出さず、一つのまなざしや一つの深いことばによって語り、幼稚な誇張をせず、感情表現の女々しい濫用をせず、そして芸術的暗示力を理解する人々のために語り、人間らしい人間たちのために語ることに在る。

クリストフは、日常生活から靈感された一瞬の交響曲を作る計量を持っていた。クリストフは人物たちや行為を音楽で描き出したのではなかった。誰でもが実感して知っているような感動、そしてそこに誰もが自分自身の魂の反響をみつけることができるような、そんな感動を。個々の人物の顔つきは描かれない。一つの大きな悲しさだけが表現される—その悲しさは、君たち

の悲しさであり、私の悲しさである。それは誰しもの運命であるし、また運命でありうるような一つの不幸に面接しての、誰しもの悲しさである。

重要な問題は、新しい音楽ジャンルを作り出すことに在り、そのジャンルにおいては、音楽的な肉声が、この肉声に同質の親近さをもつ諸楽器と協力結合し、そしてその肉声の階和的な韻文のことばへ、音楽の幻想と訴えとの反響をつつましく入り交らせる。こんな形の芸術は或る種の限られた題材にしか適用はできないだろう。魂の、切実な、集中的な諸瞬間にしか適用されえないだろう。目的は、そんな状態における魂の詩的な香りをよびさましてひろげることにあるのだから。

この美しい自由な協力も永つづきすることができなかった。彼らは共に力づよい充実の瞬間をいくつも味わった。しかし二人はあまりにも違いすぎていた。

成功は不成功よりもからっぽなもの。

知っています。一とにかく成功というものの中には、一つの神々しい美徳があることはあるのだ。成功を得たためにできるような善行があるのです。

勝利が何の役に立つというのでしょうか？ただ流行が次々に変わるだけなのです。人々は理解してくれはしません。人々はすぐに他のことを考えています。

卓抜な人々は僕たちを必要としていないんだ。彼らではない別の人々のことを考えなければならない。数千人の中に一人か二人は、僕と心を共にする人が居るだろう。僕にはそれで充分だ。たとえどうだろうと、僕が何者なのか、たとえ誰一人に解らなくとも、僕は事実あるとおりの僕だ。ぼくは自分の音楽を愛している。それを愛し信じている。それは何ものよりも真実だ。あなたの本当の役割は、芸術の力強い諸作品のその力を世の中へ感じさせ知らせることだ。

たとえそんな仕事にうまく成功してみたところで！いいえ、それでは生きるいのちが充たされはしませんわ。あたしの内には不安と熱病が宿っている・・・のぞんでも及ばないことをのぞむことになるのよ。

僕も自分に覚えのあることだな。僕も若いころはやはりそうだった。

誰もでき上る人間なんかありはしない。幸福とは、自分の限界を知って、それらの限界をいつくしむこと。